

Eureka VIII

六年制通信 No.34 令和3年2月12日(金)号

直観と論理

10歳～14歳で39分、15歳～19歳が45分、20歳～24歳は23分、25歳～29歳の17分を最後に、30歳以降は10分を切っています。何の数字かわかりますか。驚くなかれ、日本人の1日の勉強時間だそうです。社会生活基本調査というのがあるのですね、知りませんでしたけど。その平成28年度版に学業以外の勉強（自己啓発や訓練など）に当てる時間が載っていました。学校の授業は抜いてあります。君たちなら毎日300分か350分は授業がありますからね。この数字を信じるなら、世の大人たちは毎日10分も勉強していないということですが、ほんとな。私は学生時代に毎日毎日ものすごく勉強される大人を見てきたせい、大人は勉強するものだと思います。今の大人は仕事以外には何もしていないのでしょうか、ほんとに。最近はいい大人でも仕事が終わって家に帰りゲームばかりしている、と聞いたことがあります、あれ、ほんとだったんですかね。30歳以降は毎日10分、むしろその10分で何をしているのか知りたいですね。

勉強と言えば基本は読書でしょう。もちろん何を読むかが大切だとしても、本を読まずに勉強するというのは難しいですよ。1日に10分以下の読書だとすると月に何冊読めるのですかね。実はこれにもまた驚くべき統計が出ています。月に何冊読むかという統計ですが、何と0冊が47%、二人に一人は読んでいないのですね。1～2冊が37%、3冊、4冊、5冊、それ以上はそれぞれ3%くらいらしいです。月に0冊ということは年でも0冊ですよ。10年でも、20年でも0冊です。ああ、君たちには本を読む大人になってほしいなあ。これだけは強く望みます。自分の部屋に小さくてもいいから書棚を持って、再読三読する本を並べるだけで、それが君の書斎なんです。是非作ってみてください。少なくとも読書の習慣をつけて卒業してくださいね。

何度も言いますが、学歴とは読んで字のごとく学んできた歴史のことですから、高い低いの問題ではありません。まして18歳時点で決めることでもありません。大人になれば、年を重ねればその分だけ、その歴史は長く深くなるべきものです。今の情報にあふれた、しかも不確かな情報にあふれた時代だからこそよけいに、私たちは大人になっても勉強し続けるべきだと思います。

それは直観力と論理的思考を鍛えるためです。それがフェイクニュースに騙されることなく自分の正しいと信じる判断ができるために必要な能力です。直観力は心理学ではヒューリスティック (heuristic) というのですが、これは経験値を利用して瞬間的にわかる能力です。例えば、私たちは生徒諸君を何百人も見てきましたから、

だいたい顔を見たら集中して人の話を聞いているかどうかくらいわかります。いつもと様子が違うとか何か悩んでいるとか、そういうのは顔を見たら瞬時にわかります。昔、生徒の顔を見ても何もわからないと言った若い先生がいましたが、私には理解できませんでした。ちなみに、ヒューリスティックは教育の分野では「発見学習」の意味で使われます。この語は eureka と語源が同じなんです。そう、ユリイカ（「ああ、そうだったのか、わかった！」の意味でしたね、念のため）と同じ語源なのでした。この、経験値を上げることで身につく能力は、決断に時間のない時に発揮されません。ぐずぐずできないとき、論理的に考える余裕のない時、未知の出来事に遭遇した時に有効ですね。よく、同じ事象に出くわして同じ失敗をする人がいます。経験が溜まっていかないのですね。経験から学ばないからです。

論理的思考は、これはもう仕事であろうと何であろうと必要な能力です。結論を先に述べる、これを **Conclusion First** (コンクルージョン・ファースト) と言いますが、論理的に考えて相手にわかりやすく話すには、まずは結論をはっきり示すことが肝心です。私たちには二者択一をしなければならない時があります。どちらの道に行くべきか、どちらの案を採用するべきか、そんな時がたくさんあります。もちろん直観的にわかる場合もあるでしょうが、直観はしばしば間違ふことがあります。論理的に考えるのは遅いけど間違ひしません。結論からその理由を述べ、さらにその理由に至った数々の例証を示していく。こういった訓練をしておくことは、現代を生きる君たちにとって必須ではないかと私は思います。

ま、こんな難しい話より…。とにかく、いっぱい本を読んでほしいな。
バレンタインといえば6年ほど前の大雪を思い出します。あれは凄かったよね。君たちは小学生だったのかな。さて諸君、今年は「手作りチョコ」は辛抱しましょうね。油断禁物、コロナを甘く見てはいけません。

今週のおすすめ

・北山猛邦 『つめたい転校生』 (角川文庫)

この人の本は前々号でも取り上げました。あれからいろいろ読みましてファンになったので、忘れないうちに何冊か紹介しておきます。『つめたい転校生』は6編の短編集なのですが、私はどれも好きです。ネタバレになるので詳しく言えませんが、現実には起こりえない不思議な世界を扱った短編ばかりです。中でも「はかない薔薇」がいいですね。殺人現場に置かれた薔薇、品種はアンブリッジ。この薔薇だけが犯人を知っている。キャリア組で頭の固い刑事が薔薇との対話を試みるが、果たして薔薇は話してくれるのか。途中から犯人はどうでもよくて、薔薇とこの刑事の関係がどうなるのか、予想通りのラストを用意してくれているのか、そっちの方が気になりました。期待は裏切られなかったなあ。

ついでに、『踊るジョーカー』と『密室から黒猫を取り出す方法』(ともに創元推理文庫)も図書館に入れておきます。名探偵音野順シリーズですが、推理はともかく引きこもりで自信のない名探偵という設定が面白い。笑えます。最近はこの肩の凝らない本に走ってしまい、落ち着いて勉強する時間を取ってないなあ。反省です。

BGMはもとまろのサルビアの花でした…。